

パグ アサ
PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告
パグアサー 夢・希望
2016年3月

インターンと JFC 母子達とのワークショップ

マリガヤハウスでは、インターン主催の JFC 母子達と一緒に日本の文化、生活の情報や将来の計画を立てたりと色々なワークショップを行っています。この活動は、日本について学んだり、また日々の生活に追われて将来の計画を立てる機会が少ない母子達にはとても重要なものです。また、母親達には同じ問題を抱える仲間達に会って日々の苦勞をシェアする良い機会となっています。母子達だけでなく、インターンには JFC 母子達からの生の声を聞き、彼らに JFC 問題を理解してもらえる機会ともなっています。

今号では、2015年10月から2016年1月までインターンとして活動してくれた名古屋外国語大学4年生加藤紗希さんからのワークショップ報告書をご紹介します。

【ワークショップの目的】

3か月間クライアントや JFC と接していく中で、とにかく日本に行きたい、日本で働きたいと思う人が非常に多いと思いました。しかし、実際日本に住むことが幸せとは限らず、事前の準備と知識がなければ成功しないと思います。そのため、お母さんと JFC には自分たちの夢を明確にし、そしてそれをどうすれば叶えられるのかについて考えてもらいたいと思いました。私は手作りのシートを用意し、そこに



夢、問題点、解決方法、5年後・10年後の理想像について書いてもらいました。

また、私は大学でジェンダーについて研究しています。そのためそれに関係した話がしたいと思い、日本にいまに残る男女格差、そして働く場合どのような問題が起こるのかについて話しました。これは、お母さん、女の子だけでなく男の子も考えていかなければならない問題です。



【ワークショップ後の感想】

当日の準備を始めてから、参加者が何かを得られるワークショップを作ることができるのかとても不安でした。わざわざ週末に、参加者によっては遠いところから参加してもらうからには意味のあるものにしなければいけません。毎日準備に追われ、当日はあっという間にやってきました。

しかし当日、参加者は真剣に私の話を聞き、そして楽しんでいる様子でした。自分たちの夢について考えてもらうために手作りのシートを用意しましたが、みんな真剣に書いていました。そして特にうれしく感じたことは、私の“日本で働く場合の問題点”の発表に対する反応です。内容が重いので、退屈に思われてしまうのではないかと思います、内容をコンパクトにしていました。しかし皆さん真剣に聞くだけでなく積極的に質問や意見、実際に日本にいた時感じたことなどを話してくれました。最後に書いて頂いたアンケートに、“もっと詳しく知ら



かった”という意見もあったので、これは私の反省点でもあります。

真面目な内容から節分の話に変わると皆さんとても盛り上がり、恵方巻作りもとても好評でした。

イベントを企画から準備、当日の運営まで一人で行うのは初めてで、円滑に、良いワークショップを作ることができるのかとても心配でした。もちろん当日はミスもあり、参加者を戸惑わせた部分もありました。しかしみんな



なが真剣に、そして楽しそうにしている様子を見て、頑張って準備をして良かったと思いましたし、達成感も大きかったです。

また、今まで関わってきたお母さん、JFCたちと最後に交流することができたことが嬉しくもあり、もう会えないと思うと寂しかったです。私は3か月間しかマリガヤハウスにはいませんでした。それでも皆さん私の名前を憶えてくださり、アンケートにもメッセージを書いてくださいました。ワークショップが最後の仕事というわけではありませんでしたが、イベントが終わったときは、3か月間頑張ってきて本当に良かったと心から思いました。

(文責:加藤紗希、河野尚子)

